熊本地学会誌
Journal of the Kumamoto Geoscience Association, No. 170, 5 (2016)

「短　報」

球状集合を示す２種の沸石の内部構造

藤本　雅太郎*

50万分の１福岡地質図（工業技術院地質調査所 昭和27年）を見ると北西部九州には玄武岩の広大な分布が示されている．この岩石にはしばしば各種の沸石が晶洞中に胚胎されている．沸石種の同定にはＸ線粉末回折試験を利用すると有効であることは承知しているが，必要な機器やその操作については殆んど知識経験がないので，熊大理学部の尾崎正陽先生に御援助御指導をお願いした．また，大学院学生の湯川英敏氏にも分析機器操作の手ほどきをお願いした．

ところで筆者の同好の士によると，単体の沸石と見られていたものの，中に，２種の沸石で構成されていたものがあるという．これは，興味をそそられる事実なので追及を試みた．沸石はたいていの場合，指で押すとつぶれるものがあるので，追及作業のある段階での処理にプロ＝日本地科学社 京都の手をお借りすることにした．球の切断面で薄片をつくり，偏光顕微鏡で観察した写真を示す．回折試験で球の表層部と核部では光りに対する映像が異なっており，調べると前者はソーダ沸石で，後者はトムソン沸石であることがわかった．両者の境界がくしの歯状を呈する理由については，今の段階で追及が進んでいない．

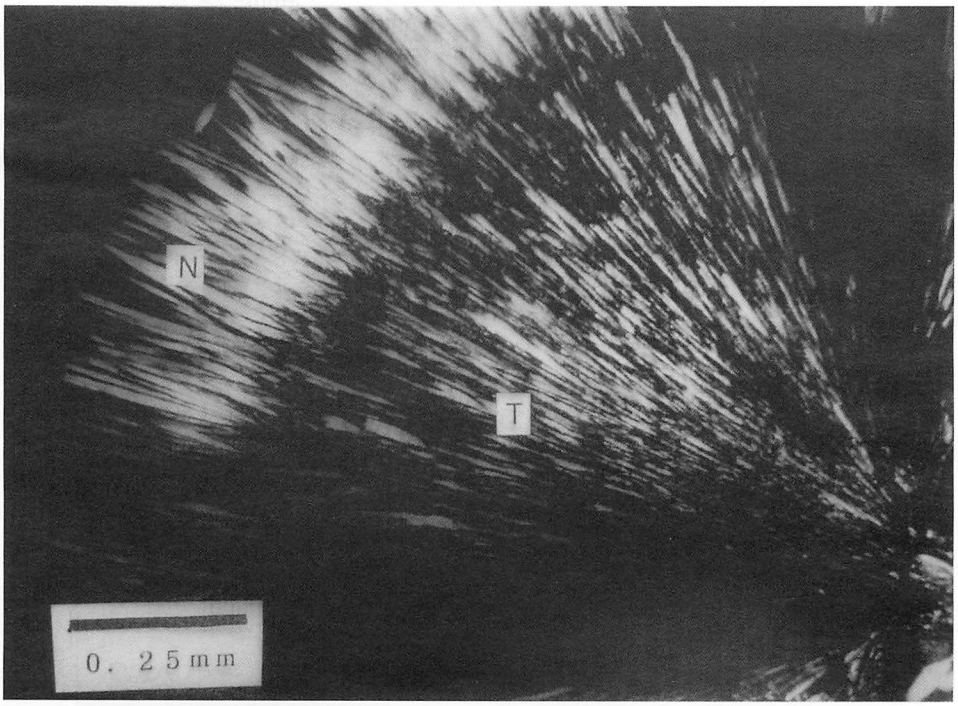

図１　沸石薄片の顕微鏡写真（クロスニコルで撮影したもの）．T, 球晶の核部を形成するトムソン沸石;N, 外縁部を形成するソーダ沸石.

2015年12月1日受付，2015年12月10日受理
*熊本県菊池市隈府71